



## お祖父さんの名が刻まれた慰霊塔へ 長年の約束を果たす沖縄 1泊2日の旅

「姪を沖縄の慰霊塔に連れて行ってあげたい」。一本の電話から今回の旅は始まった。

生まれた時から重度の小児脳性麻痺だったIさん。大好きだったおばあさんと、小さい頃から「おじいさんが眠っている沖縄の慰霊碑に行こう」と約束をしていた。その夢は、おばあさんが亡くなってからもずっと諦めていなかった。去年、体調を崩し、医者からも「行くなら今しかない」と言われたIさん。依頼の電話を下さった叔母さまの声からは、「何としても連れて行ってあげたい」という思いが伝わってくる。

ずっと寝たきりを余儀なくされているIさん。移動の間、車椅子で何時間も過ごすことができるのか？ 飛行機の座席で座位を保てるのか？ 気圧の変化に対応できるのか？ 何より、体力的に大丈夫なのか？

問題は山積みだった。しかし、Iさんを

一番近くからずっと見守ってきたお母さまからも、「今しかない。ずっと目標にしていた沖縄だから」と強く訴えかけられ、私たちも「何としても叶えてあげたい」という気持ちにさせられた。

担当の看護師さん、理学療法士さん、作業療法士さんと綿密な打ち合わせを重ね、沖縄での緊急受け入れ先病院も手配した。Iさんは出発までの短い間に、理学療法士さん達と共にリクライニング車椅子で過ごすリハビリを重ね、無事に旅行当日を迎えることができた。

介護タクシーで到着した伊丹空港で、叔母さまとも合流。お会いするなり「本当に行けるなんて信じられない。ありがとうございます」と涙を流された。一番の心配だった飛行機移動も問題なく、ついに念願の沖縄へ到着。リクライニング車椅子が降





機口に到着するまでの間に、「記念に写真を撮りましょう」とカメラを向けた瞬間、得も言われぬ素晴らしい笑顔を見せてくれた。それまでずっと、どこか不安げな表情だったさん。しかし、その笑顔を目にした瞬間「来てよかった」と心の底から思った。

空港から介護タクシーに乗って、そのまま慰霊塔へ。お母さま、叔母さま、そしてスタッフの全員でおじいさんの名前を探し当て、献花した。Iさんもこの上なく穏やかな表情だった。

ホテルに行く道中、お母さまがそっと教えてくださった。「去年に唯一コミュニケーションに使えていた手を骨折して使えなくなって以来、あの子から笑顔が消えたのよ。それまではよく笑ってくれていたのに。沖縄に来ることも諦めていたのよ」。Iさんは、車窓に映る景色をその目に焼き付けるかのように、じっと眺めていた。

エスコートヘルパー 樋口 昌代



## 行程

- 1日目 同行スタッフがお迎え  
病院出発  
伊丹空港到着  
那覇空港到着  
摩文仁の丘 慰霊塔  
ホテルロイヤルオリオンにご宿泊
- 2日目 ホテル出発  
那覇空港到着  
神戸空港到着  
ご自宅到着

## メモ

